

VOICE

トーシンテック(株) タクシー用自動ドアから福祉車両用製品へ

1959年、東京都港区にトーシンエアドア(株)として創業、独自開発したタクシー用自動ドアの生産を開始する。メーカー純正部品として売り出すも、当時のタクシーはまだ、乗降者がドアを開閉するのが普通であり、タクシー会社に売り込んでも売れない状況だったという。



1959年に発売したオートドアキットは、エンジン負圧を利用した国内唯一のタクシー用自動ドア。車内に突起物がなく乗降性に優れていた(写真はドア内部)

しかし、1964年に東京オリンピックが開催されると、東京の大手タクシー会社が新車導入の際にこぞって取り付けたことで、全国にタクシー用自動ドアの利便性が広まり普及した。その後、国内で

使用されるタクシー用自動ドアの90%をトーシンテック製品が占めるようになった。

1987年にはマイクロバスのブレーキ用真空ポンプの負圧を利用したバス用自動ドアを開発、当時使用されていたモーターとギヤ減速機を使用するタイプに比べて耐久性が高い、とお客様からも好評であった。

10年ほど前からは、福祉車両用製品にも力を入れている。アクセルインターロック、電動式オートステップなど、福祉関係ユーザーの意見を取り入れながら、開発から生産まで一貫して行い、トップシェアを誇っている。

今年3月には、車外にせり出すバス用アシストグリップを開発。マイクロバスなどの折戸式自動ドアに取付け、ドアの開閉に連動してグリップが移動するシ

ステムとした。ドアを開閉する力を利用するので新たな動力源がいらず、取付けやメンテナンスも容易である。全国のバス運行会社に使い勝手を試してもらっており、評判は上々である。

「人の力をサポートする」という思いから生まれたタクシー用自動ドア。その技術開発力を今後は高齢化社会に貢献できる商品開発に反映させていきたいという。



バス用オートドア
バキューム式折扉タイプ開閉装置

扉が開いた時



バス用アシストグリップ
グリップが車外まで数十センチせり出るので、乗車時に手を伸ばさなくてもグリップをつかむことができ、降車時には地面に足が着くまで真横でグリップを持つことができる。また、乗降時に乗客が倒れるなどの事故を未然に防ぐなど、安全性を高めている。



モーター式アクセルインター
ロック
アクセルペダルを固定することでアクセル操作を不能にし、車両発進を防ぐ装置

扉が閉じた時



□トーシンテック(株) (代表取締役社長 高木 龍一)

製品開発型企業として、中小量の車両用補助機器をタイムリーにお客先へ提供していくフレキシブルな対応をモットーに事業展開をしている。

本社

〒480-0135 愛知県丹波郡大口町御供所 1-448

TEL: 0587-94-2721 FAX: 0587-95-8753

http://www.toshintec.co.jp

榊原 悟 (2005年入社・左)

専務取締役

2005年、専務取締役(総務、購買、営業担当)就任、現在に至る。

東 孝一 (1978年入社・右)

常務取締役

2008年、常務取締役(開発・技術、品質、部品製造、管理組立担当)就任、現在に至る。



私たち資材部会は、部会会員を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は、会員のより強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対するより積極的な協力体制が展開されています。

「VOICE」では、シリーズで部会会員会社の製品および技術が開発されるまでの経緯を紹介していきます。

(株)パトライト マイクロモータ開発から生まれたオリジナル製品

(株)パトライトは、1947年に創業者である佐々木寛一氏が、大阪にササ電機研究所を創業したことから始まる。1948年には日本初となる小型軽量のパーマネントスピーカをヒットさせるが、特許取得を失念したこともあり、倒産してしまう。

再起を懸け、1955年に音響機器用直流マイクロモータを開発。大手家電メーカー向け製品として開発・生産を開始したが、メーカーの影響が強いため、思ったような製品作りが出来ないというジレンマに陥った。そこから「自社のオリジナル製品」の必要性を強く感じ、1965年に自社製モータを使用した回転



自社ブランド製品第1号となった
回転警示灯(SK-12型)

警灯は、大型モータを使用する重いものであったが、同社ではマイクロモータを使用、軽く、しかも壊れにくい製品であった。売れるきっかけとなったのは、着脱式回転灯の採用であった。軽く壊れにくいだけでなく、回転灯をマグネットで簡単に車両のルーフに設置できるという利便性が受け、警察での採用に繋がった。

その後、散光式警示灯でパトカー用警示灯の地位を確立する。散光式警示灯は1970年当時のアメリカのパトカーをヒントに開発したもので、警察庁や旧道路公団の緊急車両等に広く採用された。

1996年には世界初となるブーメラン型散光式警示灯を開発・販売。「交差点進入時、出会い頭の事故を減らしたい」という現場の声に応え開発された。ブーメラン形状にすることで横・斜めからの視認性を向上し、更にスピーカーホンを下部に配置、全周囲に強い

光を放つことができるようになった。

現在は警察など緊急車両用の回転灯やサイレンで約90%のシェアを誇っている。回転灯の他にもLED製品、音声製品、文字表示製品など幅広くパトライト製品が活躍している。

独自の製品作りを通して、さまざまな分野に進出し、お客様のニーズに応じてきた。これまで培ってきた製品技術を今後も活かして時代に即した製品作りをしていきたいという。

スクエア型散光式警示灯
日本初の車載用の大型回転灯。



ブーメラン型散光式警示灯
ブーメラン形状にしたことで、視認性が向上、空力抵抗も下がり走行安定性向上にも貢献。



緊急地震速報表示端末
緊急地震速報からの情報を元に予想震度と予想到達時間をカウントダウン表示する端末。
通報システムを構築することで、光、音声、文字情報などで地震速報を知らせることができる。

□(株)パトライト (代表取締役社長 澤村 文雄)

世界中の人たちに「安心・安全・楽楽」をお届けし社会に貢献、またお客様の立場に立って価値ある商品とサービスを提供します。厳しさに強い体質をつくり、会社の発展と豊かな社会づくりに取組みます。

本社

〒542-0067 大阪府大阪市中央区松屋町 8-8

TEL: 06-6763-8001 FAX: 06-6763-8002

http://www.patlite.co.jp

藤井 篤 (1976年入社)

取締役常務執行役員

1989年技術部部长、1997年LEDボード事業部長を経て、1999年取締役営業本部部长に就任、2007年取締役技術本部部长、2008年より現職、現在に至る。

